１１０人出席し賑やかに２０２０年新年会を開催

上田高校関東同窓会は１月１８日（土）、千代田区一ツ橋の日本教育会館で、２０２０年新年会を開催した。昨年から平日出席が難しい会員が参加しやすいよう土曜日開催にした効果も反映、雨模様の中、５３期から１０４期まで、新年会としては過去最多の１１０人が出席する盛況となった。

冒頭、上原昇会長（65 期）が「会員交流の活性化などいっそうの発展を目指しましょう」と、あいさつした。

アトラクションは、同窓生で落語立川流の真打、立川談慶師匠（82 期、本名：青木幸二）の初春の一席。

前座として、談慶師匠の母親の青木智恵子さんがハローちいチャンとして創作紙芝居「上田生まれの赤松小三郎さん」を上演し、会場を盛り上げたあと、談慶師匠がスウィングジャズの「インザムード」の出囃子で登場。軽妙な自己紹介と世相風刺を織り込んだ枕で笑いを誘ってから、城内禁酒のおふれが出ながら、酒を注文する見張り役の役人と、「菓子」と偽って届ける酒屋のやり取りを笑わせる古典落語「禁酒番屋」をたっぷり聞かせ、爆笑を誘った。

席を移して催された懇親会では、増澤章副会長（68 期）の司会により、出席最年長の 53 期の堀内忠久さんの音頭で乾杯。テーブルごとに多くの人の輪ができ、近況や昔話に花を咲かせた。

７月に開幕する２０２０年オリンピック・パラリンピック東京大会を控え、大会組織員会で奮闘する同窓生、清水瞳さん（１０３期）と髙山大蔵さん（１０４期）も出席し、それぞれ自己紹介したほか、清水さんからパラリンピック大会のチケット販売も始まったことを紹介。開幕ムードと期待感を高めた。

談慶師匠も交えて歓談も盛り上がる中、本年総会の実行委員長である７３期の掛川治男さんが総会成功に向け、力強く決意を表明。 出席者の中で一番若い１０４期の有賀創さんが挨拶をしたのを受けて、原田副会長の中締めがあり、母校、同窓生の今年一年の活躍と、関東同窓会の結束、発展を誓い合った。

本村龍生（69 期、会報編集長）

（次ページに写真）

初笑いの古典落語をたっぷり聴かせる立川談慶師匠